

(案)

医療従事者の皆様へ

〈異常行動による転落等の事故を予防するためのお願い〉

インフルエンザの患者さんでは、抗インフルエンザウイルス薬の種類や服用の有無にかかわらず、異常行動に関連すると考えられる転落死等が報告されています。

異常行動

- ① 小児・未成年者の男性で報告が多い、
- ② 発熱から2日間以内に発現する傾向がある

(異常行動の例)

- ・ 突然立ち上がって部屋から出ようとする
- ・ 興奮して窓を開けてベランダに出て、飛び降りようとする
- ・ 人に襲われる感覚を覚え、外に走り出す
- ・ 突然笑い出し、階段を駆け上がろうとする
- ・ 自宅から出て外を歩いている、話しかけても反応しない
- ・ 変なことを言い出し、泣きながら部屋の中を動き回る など

事故を防止するために

発熱から2日間、抗インフルエンザウイルス薬服用者は、服用開始後少なくとも2日間、就寝中を含め、特に小児・未成年者が容易に住居外へ飛び出さないために、例えば、以下のような具体的な対策を講じるよう、保護者の方にご説明ください。

- ・ 玄関や全ての部屋の窓を確実に施錠する（内鍵、チェーンロック、補助鍵がある場合は、その活用を含む）
- ・ ベランダに面していない部屋で寝かせる
- ・ 窓に格子のある部屋がある場合は、その部屋で寝かせる
- ・ 一戸建てにお住まいの場合は、できる限り1階で寝かせる

(案)

インフルエンザの患者さん・ご家族・周囲の方々へ

インフルエンザにかかった時は、飛び降りなどの異常行動をおこすおそれがあります。(特に発熱から2日間は要注意!)
窓の鍵を確実にかけるなど、異常行動に対する対策を徹底してください。

〇〇は××のお薬です。医師・薬剤師の指示に従い、(用法用量)お飲みください。なお、主な副作用として、〇〇があります。

- ・ 何か気になることがありましたら、医師・薬剤師にご相談ください。
- ・ 誤飲防止のため、お子様の手の届かないところで保管してください。

〈異常行動による転落等の事故を予防するためのお願い〉

● インフルエンザの患者さんでは、抗インフルエンザウイルス薬の種類や服用の有無にかかわらず、異常行動に関連すると考えられる転落死等が報告されています。

- 異常行動は、
 - ①小児・未成年者の男性で報告が多い、
 - ②発熱から2日間以内に発現する傾向がある、
ことが知られています。

(異常行動の例)

- ・ 突然立ち上がって部屋から出ようとする
- ・ 興奮して窓を開けてベランダに出て、飛び降りようとする
- ・ 人に襲われる感覚を覚え、外に走り出す
- ・ 突然笑い出し、階段を駆け上がろうとする
- ・ 自宅から出て外を歩いていて、話しかけても反応しない
- ・ 変なことを言い出し、泣きながら部屋の中を動き回る など

● 万が一の転落等の事故を防止するため、服用開始後少なくとも2日間は、就寝中を含め、特に小児・未成年者が容易に住居外へ飛び出さないために、例えば、以下のような対策を講じてください。

- ・ 玄関や全ての部屋の窓を確実に施錠する(内鍵、チェーンロック、補助鍵がある場合は、その活用を含む)
- ・ ベランダに面していない部屋で寝かせる
- ・ 窓に格子のある部屋がある場合は、その部屋で寝かせる
- ・ 一戸建てにお住まいの場合は、できる限り1階で寝かせる